

うまい米は土づくりから

～ 地力を高め異常気象にも安定した稲作を ～

「イネは土で作れ」といわれるように、稲作にとって地力はなくてはならないものです。水稻の収量は地力に依存する割合が60%前後と大きく、中でも土壌有機物の割合が大きくなっています。

地力とは 肥料養分を蓄える力 + 肥料養分を徐々に供給する力

1 こんな土は赤信号！！

- (1) 作土が浅く、土が硬くなっている。
- (2) 排水・透水性が悪い。
- (3) 毎年収量が上がらない。収量の変動しやすい。
- (4) 秋落ちを起こしやすい。
- (5) ごま葉枯病等の病害を起こしやすい。

2 土づくり対策

(1) 深耕して作土を深くする(目標 18cm)

・ロータリ耕起が中心の場合は作土が浅くなり、耕盤層が厚く硬くなっています。プラウによる反転耕を取り入れてください。

・深耕すると透水性が良くなるだけでなく、作土から溶脱して耕盤層に集積している鉄やケイ酸などの養分が再び作土に戻り、土が若返ります。

・ただし、上層の富んだ土が下層に攪拌されるので、一度に行わず徐々に(年2～3cm)目標の深さにするようにしましょう。

(2) 排水をよくして乾田化を進める

・排水の悪い田については、秋・冬期に補助暗渠・明渠により、乾田化を進めましょう。

(3) 有機物を施用する

・有機物の少ない土は地力が低下し保肥力も弱くなるため、秋落ちしやすくなります。有機物が少なくなるとほ場が硬くしまり、碎土も難しくなります。

有機物の施用方法

1 堆きゆう肥を 1.5～2.0 t / 10 a 施し、すき込むようにしましょう。

(有機質肥料にはさまざまなものがあります。それらのうち、地力を高める効果が強いものには、牛糞堆肥などがあります。一方即効性が高く、地力の確保としての効果は薄いものとしては、鶏糞・菜種油粕などがあります。)

2 田植えまでに十分に稲わらが分解しないと、ガスが発生して生育障害の原因となります。刈り取り後なるべく早くすき込みましょう。

3 すき込みの前に、石灰窒素 20 kg / 10 a を施すことで、わらの腐熟を促進させることができます。

(4) 秋落ちを起こしやすい水田の改良

砂の多い田…フェシカ等の土づくり資材の施用が効果的です。

肥持ちの悪い田…ベントナイトの施用が効果的です。耕起または荒代まえに作土全層に 0.7～1t / 10a 混和します。土壌によって加減します。

(5) 土づくり資材を散布する

肥料の3要素(窒素・リン酸・カリ)以外にも、植物が生育するためにはミネラル成分が必要です。また、イネは他の植物と違い、ケイ酸を選択的にたくさん吸収する植物です。

肥料成分の役割

ケイ酸: 茎葉を堅くする。

根の活性を高め秋落ちを防止する。
いもち病、ごま葉枯れ病の抵抗性が高くなる。

石 灰: 根の発達に重要。土壌の酸度を中和する。

苦 土: 葉緑素の成分。これを欠くと作物が黄色になる。

鉄 分: 土壌の酸素欠乏による障害から根を守る。
秋落ち田の改善効果がある。

マンガン: 秋落ち防止の効果がある。特にごま葉枯れ病の軽減に役立つ。

[\(戻る\)](#)